

伊東市地域公共交通計画

<資料編>

令和7年（2025年）〇月

伊 東 市

目次

1. 規約、協議会名簿	1
1-1 規約	1
1-2 協議会名簿	1
2. 伊東市の地域公共交通を取り巻く現状	2
2-1 地域の概況	2
2-2 地域公共交通の状況	10
3. 市民アンケート調査の結果	14
3-1 調査概要	14
3-2 調査結果概要	19
3-3 地域別、年代別の集計結果	23
3-4 公共交通利用有無別の集計	56
4. 参考となる事例	60
4-1 路線や移動に関するニーズの計測・可視化に関する事例	60
4-2 交通空白・不便地域の設定方法に関する事例	62
4-3 地域での移動手段確保の取組み	65
4-4 新たな移動手段確保に向けたガイドライン、手引き等の作成	67
4-5 新たなモビリティに関する事例	68

1. 規約、協議会名簿

1-1 規約

1-2 協議会名簿

※今後追加

2. 伊東市の地域公共交通を取り巻く現状

2-1 地域の概況

(1) 地理・地勢

○本市は、伊豆半島の東海岸に位置し相模湾に面した地形となっている。南北に細長い市域を形成しており、沿岸部に平地が集中している。一方、沿岸部以外は山間部が広がっており、平地との高低差が大きい状況となっている。

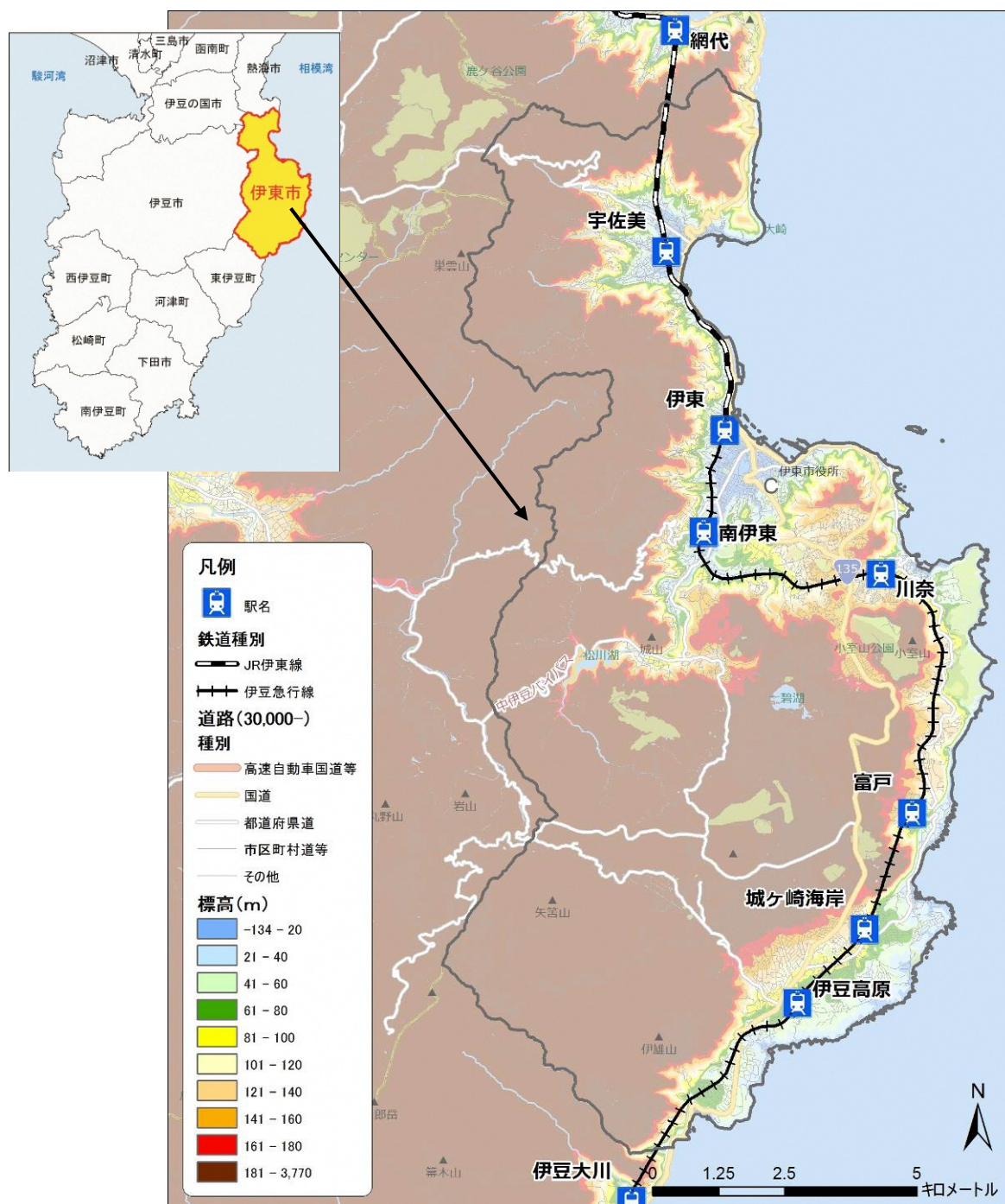


図 1 伊東市の地形、標高、道路網

(2) 運転免許証の保有及び返納状況

○近年、自動車の運転免許保有者数は緩やかな減少傾向にある。また、免許返納者数は令和元年に増加したが、その後は減少傾向にある。返納者のほとんどが65歳以上の高齢者となっている。

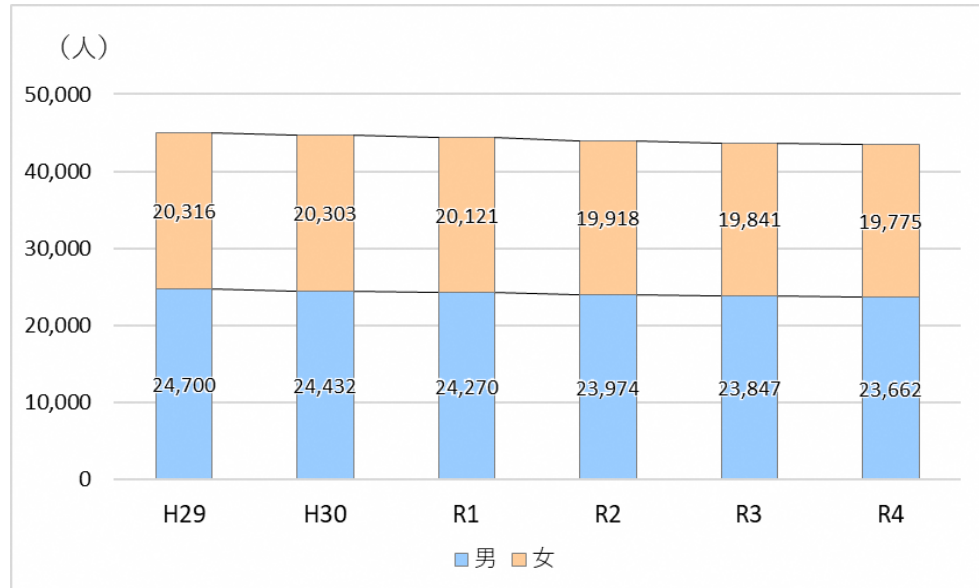


図 2 伊東市内の免許保有者数の推移

※出典：静岡県警 交通年鑑

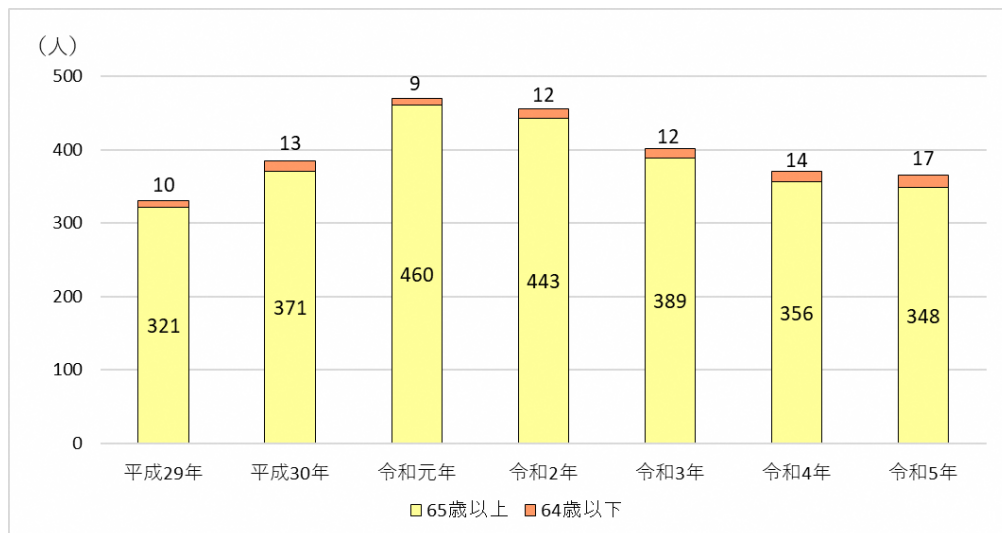


図 3 伊東警察署における免許返納者数の推移

※出典：伊東警察署

(3) 人口分布

○人口分布については、主に伊東駅、南伊東駅、川奈駅、伊豆高原駅といった鉄道駅の周辺、市の中心部の県道沿いに人口が密集している。郊外や山間部においては、分散がみられる。

○市内各地、特に南部の対島地区には、別荘地・分譲地が多く点在しています。これらの別荘地・分譲地では定住化も進んでいる。

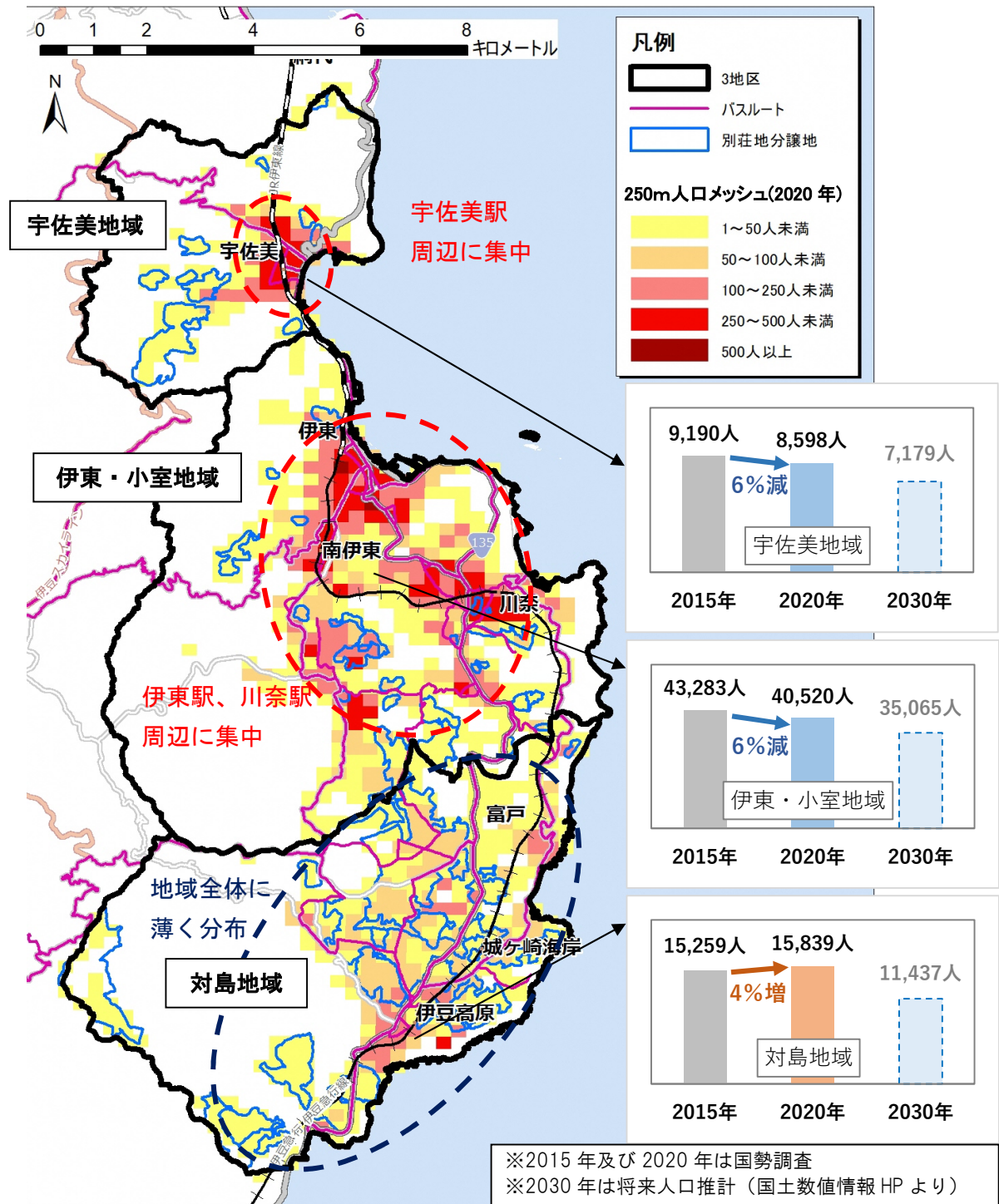


図 4 人口分布及び地域別の人口推移

(4) 高齢化率

○高齢化率については、人口が密集している地域（伊東駅から南伊東駅、川奈駅、中心部の県道沿いにかけて、また、宇佐美駅周辺や伊豆高原駅周辺など）は比較的高齢化が低くなっているが、郊外や山間部は高齢化が進んでおり、特に別荘地・分譲地のほとんどにおいて高齢化率が高くなっている。

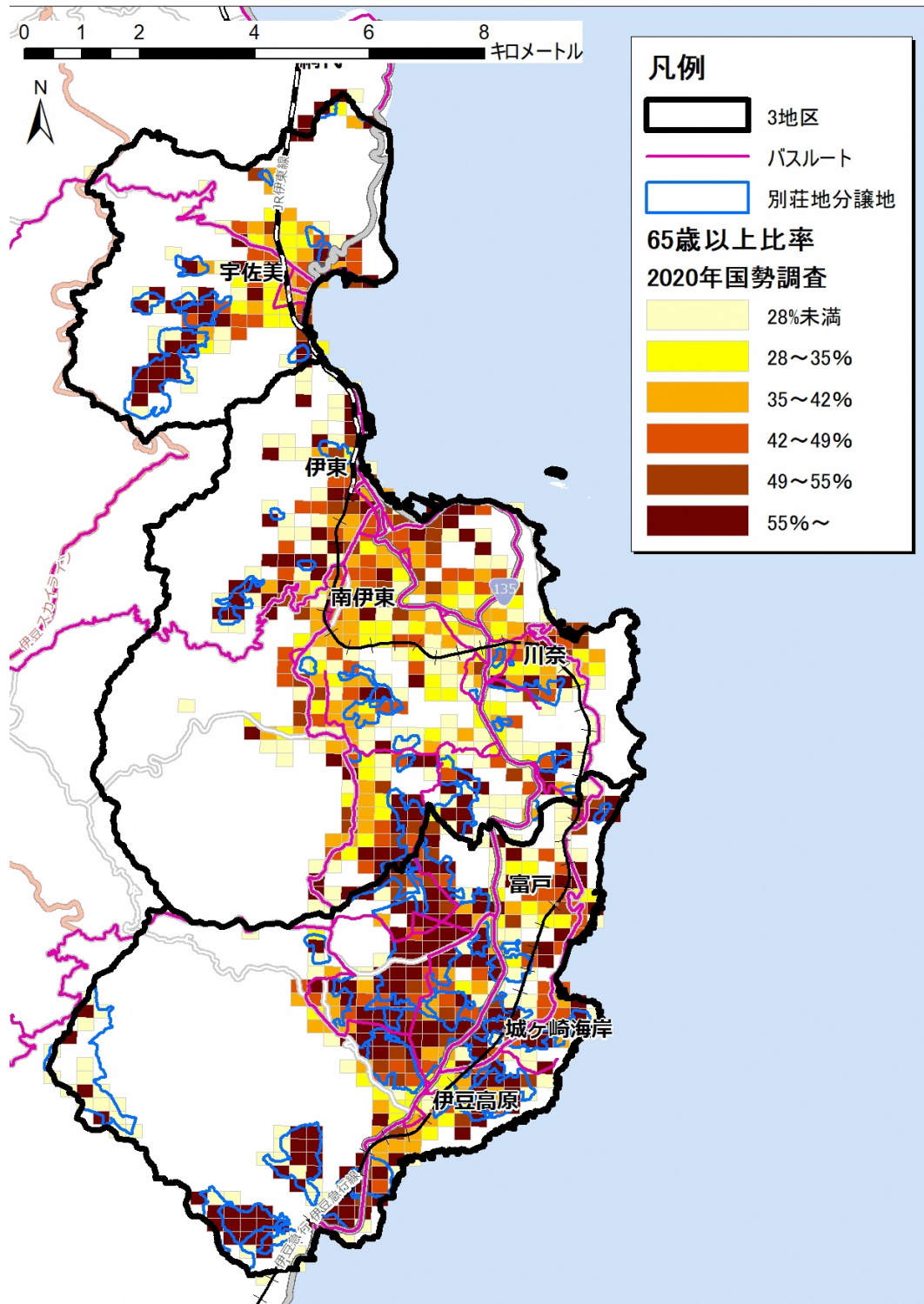


図 5 高齢化率の分布

出典：国勢調査（2020 年）

(5) 施設分布

①教育施設、商業施設

○主要な商業施設（大規模小売店舗）は、伊東駅、宇佐美駅、南伊東駅、川奈駅、伊豆高原駅の周辺、中心部の県道沿い（いずれも人口が集中する地域）に立地している。

○市内には高等学校が3校あり、いずれの高校も鉄道駅からやや距離があるが、路線バスの沿線に立地している

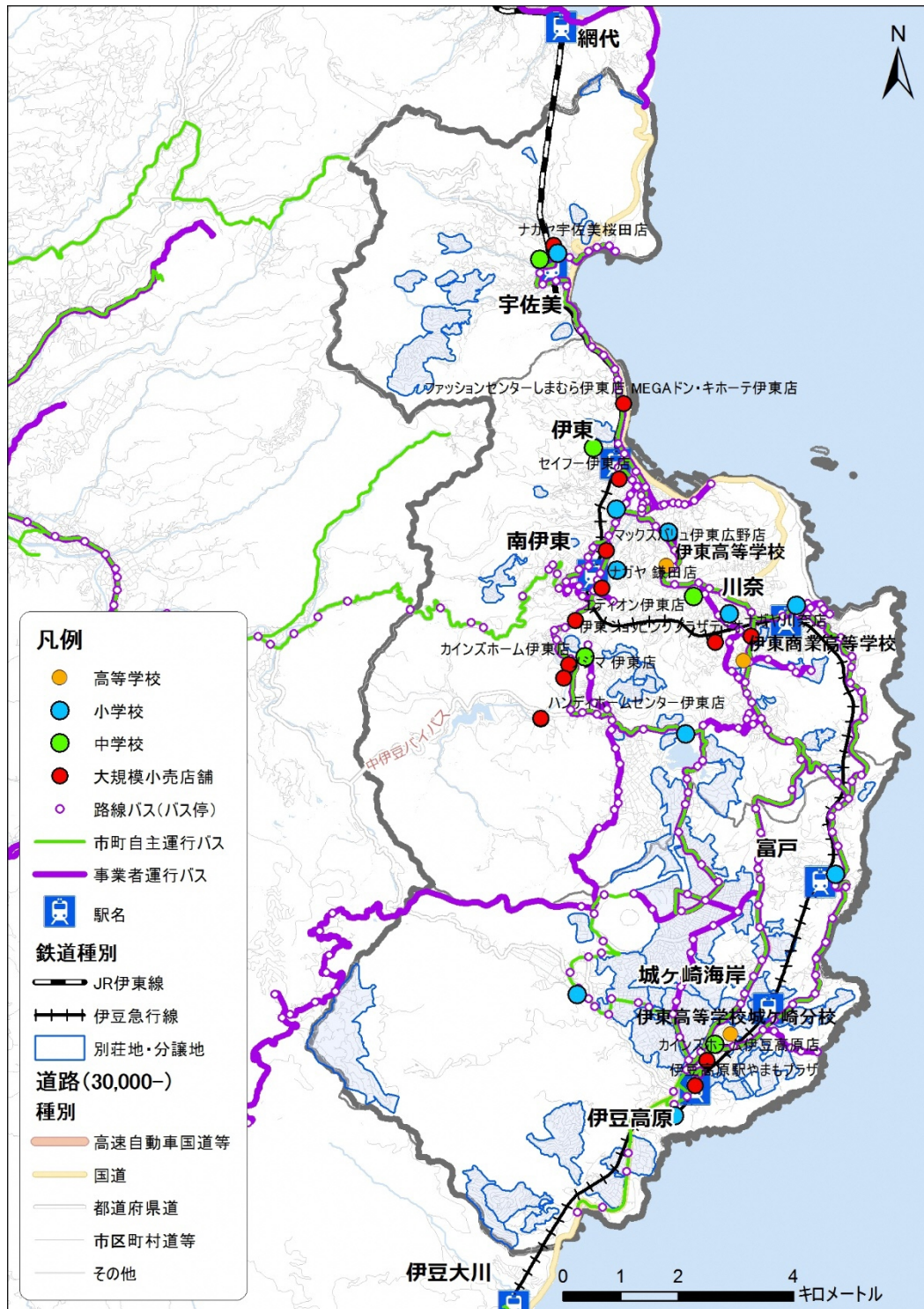


図 6 教育施設、商業施設の分布

出典：高等学校 国土数値情報
大規模小売店舗 静岡県資料（大規模小売店舗届出状況）

③文化、福祉施設

○市内の文化施設、福祉施設については、概ね鉄道駅周辺や路線バス停周辺に立地しているが、一部の施設は公共交通でのアクセスが困難となっている。

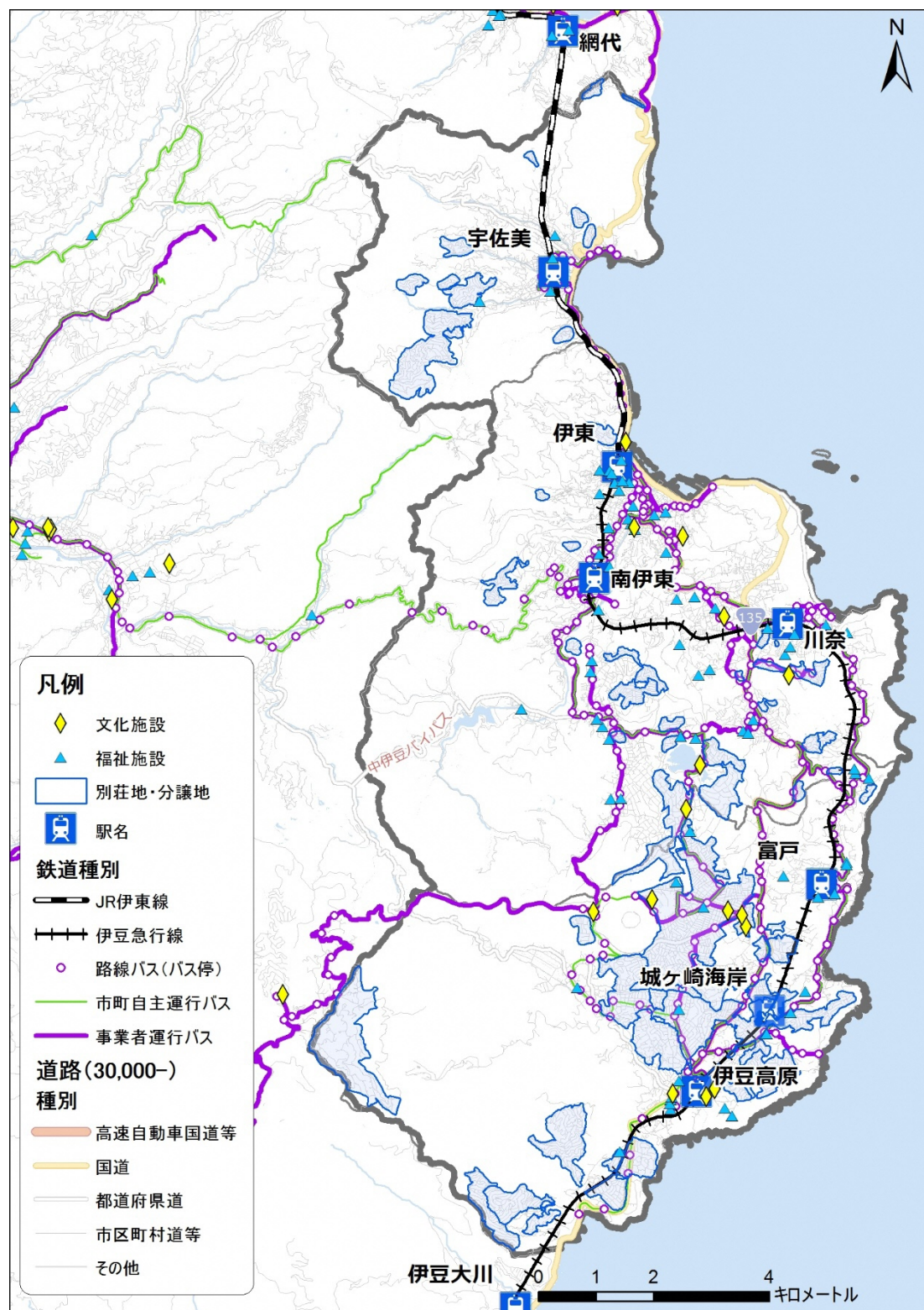
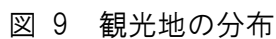


図 8 文化施設、福祉施設の立地状況

出典：文化施設 国土数値情報
福祉施設 国土数値情報

○市内の観光施設は、伊東駅周辺の他、市の中心部（伊東駅周辺）から南部にかけて点在して立地している。これらの施設は鉄道駅から離れた場所に立地していますが、路線バスでのアクセスが可能となっている。



2-2 地域公共交通の状況

(1) 伊東市自主運行バス路線

①路線一覧

○伊東市の自主運行バス路線は以下のとおり、10 路線（15 系統）運行している。

○伊東駅発着が 4 路線、伊豆高原駅発着が 4 路線、伊東駅と伊豆高原駅を結ぶ路線が 2 路線となっている。

表 1 伊東市自主運行バス路線の一覧（運行本数は 2023 年度時点）

発着駅		運行区間			運行本数	
伊東駅	伊豆高原駅	起点	主な経由地	終点	往路	復路
●		伊東駅	冷川 中伊豆温泉病院※	修善寺駅	6	6
●		伊東駅	川奈ホテル	蓮着寺口	1	1
●		伊東駅	—	宇佐美港	12	11
●		伊東市役所	—	宇佐美港	2	2
●	●	伊東駅	沢向	伊豆高原駅	4	3
●	●	伊東駅	ぐらんぱる公園	赤沢海岸	3	4
	●	伊豆高原駅	池	シャボテン公園	2	2
	●	伊豆高原駅	—	池中野	1	1
	●	ぐらんぱる公園	八幡野	赤沢海岸	1	0
	●	伊東市民病院	荻・大室高原	伊豆高原駅	1	2

※2023年度より移転に伴い経由

②利用者数の推移

○自主運行バス路線の路線別利用者数の推移を以下に示す。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2019 年度から 2020 年度にかけては利用者数が 70%まで減少したが、2023 年度時点では 2019 年度と同水準まで回復している。

○利用の回復、増加が著しい路線の特徴は以下のとおり。

- ・伊東駅～修善寺線：中伊豆温泉病院の移転（伊豆市内）による効果と考えられる
- ・伊東駅～ぐらんぱる公園～赤沢海岸、ぐらんぱる公園～赤沢海岸：
インバウンドを含め、観光需要の回復が影響と考えられる

○利用者数の減少に歯止めのかからない路線は以下のとおり。

- ・伊豆高原駅～池～シャボテン公園
- ・伊豆高原駅～池中野
- ・伊東市民病院～伊豆高原駅

表 2 伊東市自主運行バス路線の路線別利用者数の推移

年間利用者数（人／年）

運行区間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
伊東駅～修善寺駅	51,424	38,143	40,880	44,530	50,874
対2019年度比		74%	79%	87%	99%
伊東駅～蓮着寺口	12,810	8,241	10,086	13,137	18,147
対2019年度比		64%	79%	103%	142%
伊東駅～宇佐美港	35,107	26,905	30,288	26,100	29,736
対2019年度比		77%	86%	74%	85%
伊東市役所～宇佐美港	9,272	7,380	7,626	6,519	8,733
対2019年度比		80%	82%	70%	94%
伊東駅～沢向～伊豆高原駅	53,802	31,025	49,093	48,910	49,410
対2019年度比		58%	91%	91%	92%
伊東駅～ぐらんぱる公園～赤沢海岸	34,665	35,168	45,059	27,004	52,205
対2019年度比		101%	130%	78%	151%
伊豆高原駅～池～シャボテン公園	16,104	5,293	4,381	3,833	10,248
対2019年度比		33%	27%	24%	64%
伊豆高原駅～池中野	2,196	1,643	365	183	549
対2019年度比		75%	17%	8%	25%
ぐらんぱる公園～赤沢海岸	244	492	1,230	615	492
対2019年度比		202%	504%	252%	202%
伊東市民病院～伊豆高原駅	7,442	2,214	4,797	2,952	3,567
対2019年度比		30%	64%	40%	48%
合計	223,066	156,504	193,805	173,783	223,961
対2019年度比		70%	87%	78%	100%

(2) 赤沢デマンドタクシー

① 運行概要

○赤沢地区を運行するデマンド型交通は、日中の路線バスの代替として、2015 年 10 月から実証運行を行い、2016 年 10 月からは本格運行を開始している。運行区間は、伊豆高原駅～赤沢海岸間の運行となっている。

表 3 デマンド型交通の運行状況、利用状況

運行日	毎日運行
受付時間	9 時～17 時
運行本数	5 往復/日
運行方法	予約があった便のみ運行 ※「高原駅やまも口」、「八幡野コミセン」の利用がない場合、ルートを変更して運行

運 行 経 路



図 10 デマンド型交通の運行ルート

出典：伊東市HP

②利用状況

○赤沢地区デマンド交通（伊豆高原駅～赤沢海岸間を平日日中に運行）は、令和 5 年度では 5 月の利用が多くなっている。年度別にみると、令和元年度までは利用者数が増加傾向にあったが、令和 2 年度以降はコロナ禍の影響を受けて利用者数が大きく減少している。

○2022 年度以降も、運転手不足による稼働率の低下などの要因から、利用者数は減少傾向にある。

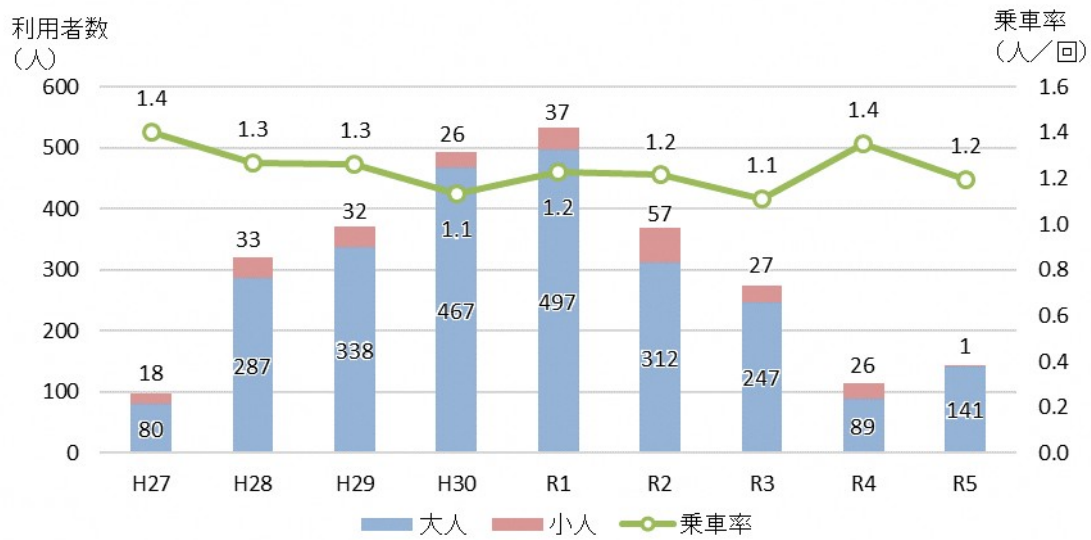


図 11 年度別利用者数・乗車率の推移（2019～2023 年度）

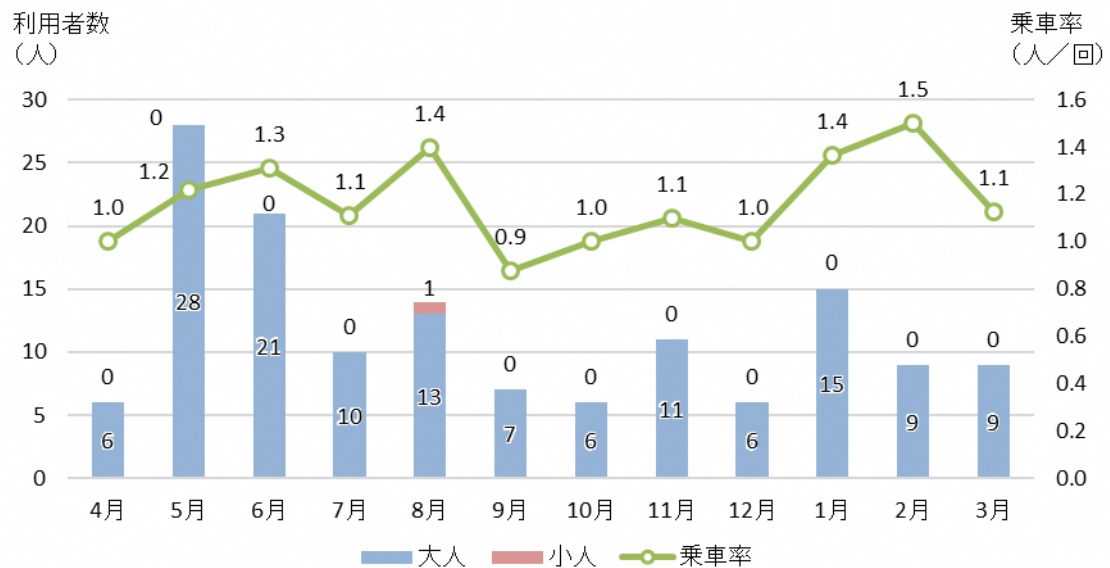


図 12 2023 年度の月別利用者数・乗車率の推移

出典：伊東市HP